

淀川城北ワンド(大阪市旭区)の外来種の現状について

淀川河川事務所 河川環境課長 志鹿浩幸

大阪市旭区にある城北ワンドで環境改善のため、平成18年11月16日から平成18年12月8日まで干し上げ実験(水位2m低下)を行いました。その際に、在来種の捕獲のため、合わせて外来種の駆除を実施しました。この実験での外来種の状況について報告します。

城北ワンドは、淀川の下流から12.6kmの左岸にあります。ワンドは平常時、淀川の本流と水域を異にし、細い水路で繋がっている状況で洪水時に繋がる水域です。2.8km下流には、淀川大堰があり湛水区域になっています。ワンドの大きさですが、約50m×約60m=約3000m²で水深約3m(水深1mで約2/3程度の底が見える。)となっています。魚の捕獲については、水位を低下させた後、地引き網3回(網目2.5cm1回、網目0.2cm2回、)を実施しています。

本題の外来種の状況ですが、捕獲した魚の数は全体で約3700尾となっています。その内外来種は、約3400尾という状況で約9割を占めていました。外来種の内訳ですが、ブルーギルが約3300尾(大きな個体(10cm以上)は167尾)、ブラックバス54尾、カムルチー2尾、カダヤシ50尾という状況でした。

確認された在来種は、フナ類170尾、ニゴイ類15尾、コイ1尾、トウヨシノボリ約30尾、ヌマチチブ20尾、コウライモロコ約30尾、ハス約30尾、シロヒレタビラ1尾、キギ2尾、ヒガイ2~3尾、オイカワ2~3尾、タモロコ1尾、モツゴ2~3尾、ウナギ1尾となっています。

最後に、調査結果を報告させて頂いたのですが、淀川下流域のワンドでの外来種情報として活用して頂ければ幸いです。